

他にもあります! 丸亀の島の構成文化財



木烏神社の鳥居(本島)

様式は明神鳥居で、笠木は両端を丸く盛り上げた特徴のある造りで、寛永4(1627)年の建立。



石の里資料館(広島)

旧広島西小学校の一部を利用して、青木石の歴史や石切りの道具、島の生活道具などを展示。



年寄の墓(本島)

塩飽水軍を統治した塩飽衆の代表者である年寄の墓。高さは3mを越え、権力の強さを物語っています。

石の産地を支えた海運



日本遺産に認定された備讃諸島「石の島」

瀬戸内海の島々で、採石の発展をもたらした大きな要因は、「海」でした。島々をつなげていた「海」こそが、巨大な石を遠隔地まで運ぶために不可欠な「道」だったのです。西日本の海上交通の大動脈でもあった瀬戸内の島々には、海の「道」への入り口となる港町が形成されました。丸亀の島では、表紙にも掲載している尾上邸(広島)と笠島集落(本島)、また下記の塩飽勤番所(本島)が、港町として栄えた象徴的な場所です。当時の海の民の経済力が表れています。

構成文化財を抜粋して紹介します。

丸亀市



塩飽勤番所(本島)

瀬戸内海で活躍した塩飽水軍の政治の中心地。信長・秀吉・家康など天下人からも高く信頼され、その証となる朱印状が今も残されています。瀬戸内海の石材運搬に関わった人の偉業と歴史を伝える貴重な場所。

土庄町



迷路のまち

路地が入り組んだ土庄の集落は「迷路のまち」として知られています。西光寺はその象徴的な存在で、境内からまちを一望できます。採石奉行・加藤清正ゆかりの屋敷跡も残っています。



笠島集落(本島)

重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。中世には塩飽水軍、江戸時代には塩飽廻船の拠点として栄えました。

笠岡市



千ノ浜の護岸景観

丁場から切り出した石を積み出した小さな港。大小の端材を巧みに組み上げた護岸が残っており、「北木石」の原産地ならではの景観が見られます。

島の人に聞きました



広島 島案内人 横瀬 通子さん(左) 平井 光子さん(右)

広島の玄関口・江の浦港の待合所で、地元の人々が作ったお土産などを毎週土・日曜にボランティアとして販売しています。広島は知名度が低いかもしれませんが、みんなで広島を元気にしようと、力を合わせて地道にがんばっています。今回日本遺産に認定されたことが、広島を多くの人に知ってもらおうきっかけになればうれしいです。島の一人一人が日本遺産を身近に感じ、盛り上げていけるようがんばります。さぬき広島が皆さんをお待ちしております。



本島 観光ガイド 信原 清さん

本島のガイドを始めて7年目になります。普段のガイドでは、本島の歴史的な場所や観光スポットを中心に案内しています。本島の現在のガイドは実質2人と少なく、私も含めて高齢です。今回の日本遺産認定でガイドの需要が増えるようなら、若い人でガイドになる人がいてくれればありがたいです。今後は、ガイドとして「石」を通じて本島を発信していきたいと思っています。多くの人が本島を訪れ、採石や海運の歴史、文化などに興味を持ってくれればうれしいです。

日本遺産を今後*い*に生かす

丸亀市・笠岡市・土庄町・小豆島町の2市2町は、連携して石の文化をはじめとする備讃諸島の魅力を深めていくため、5月27日に「せとうち備讃諸島日本遺産推進協議会」を設立しました。今後、官民一体となって様々な事業を展開していく予定です。

観光ガイドのマニュアル作成、都市部イベントでのブース出展、日本遺産認定記念シンポジウムの開催、また、多言語対応特設サイト、PR動画の製作、共通ポスター、のぼり、看板の設置などを進めていきます。



尾上邸(広島)

江戸時代に廻船問屋として繁栄した面影を残す屋敷。まるで城のような石垣は、広島の「青木石」を積み上げています。



波節岩灯標(広島沖)

広島市の南・約1km沖に浮かぶ直径50mの岩礁(波節岩)の上に設置された、高さ13mの灯標(灯台)。明治28年竣工。



石蔵(広島)

花崗岩の外壁を持つ石蔵で、灯標(左写真)用油の貯蔵庫として活用されていました。